

「第4回既設ダム有効活用アドバイザー会議」開催について

平成18年11月10日(金)15:00~17:00、京都全日空ホテル2F 醍醐の間において「第4回既設ダム有効活用アドバイザー会議」が委員全員(6人)の出席により開催されました。

第3回アドバイザー会議で指摘のあった既設ダム治水対策と堆砂対策に関する課題について活発な議論がなされました。

治水対策に関する課題

- ・オリフィスゲート新設について、3次元レベルの解析結果により2門案、3門案とも対応可能との結果が示された。今後は、不確定要素もあることから、堤体周辺の応力解析、経済性、施工性、維持管理のしやすさ、危機管理も含め総合的に検討すべきである。

堆砂対策に関する課題

- ・流域全体の土砂収支バランスを考慮し、将来(中期的30年、長期的100年後)において、基本計画(那賀川水系河川整備基本方針や検討中の河川整備計画)との整合性が図れるか検討する必要がある。
- ・下流置土が河川環境に及ぼす影響については、重要箇所を抽出し、試験置土のモニタリングや2次元河床変動解析により検討しておくべきである。

委員：岡部建士
柏井 条介
角 哲也
中川博次
道奥康治
山口 嘉一

